

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人姫路市文化国際交流財団	
施 設 名	姫路キャスパホール	
助成対象活動名	公演事業	
内定額(総額)	3,478	(千円)
公演事業	3,478	(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	公益財団法人姫路市文化国際交流財団設立30年記念 鄭義信作・演出「二十世紀少年少女読本」	2019年9月22日～23日	出演：荒谷清水、上滝昇一郎、はりま劇団協議会	目標値	900
		姫路キャスパホール		実績値	879
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	900
				実績値	879

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

- ・地元劇団の集合体でもある「はりま劇団協議会」と当財団との共同主催としたことで、地元劇団の育成、支援を図れた。また、劇団同士の競争もみられ質の高い公演となり、来場者からは迫力と演技に惹きつけられたという声がたくさんあった。
- ・当市出身の鄭義信氏の代表作のひとつである「二十世紀少年少女読本」が、姫路発の作品であるという事を広く再認識させる機会となった。
- ・本公演に先立ち「鄭義信演劇ワークショップ」を開催した際、社会的役割にも記述している「高校演劇部」の事務局である“兵庫県高等学校演劇研究会西播支部”と協力することにより、高校演劇部の生徒が多数参加し、若い人材の育成と、地域の演劇文化の底上げに貢献できた。
- ・指標の達成状況（実績）については、公演日数と公演回数とも指標どおり2日間3回公演を達成し、入場者目標900人に対し879人と目標の98%の入場率を達成できた。
- ・広報については計画以上の反響があり、情報誌、新聞紙面掲載数、近隣公演の挟み込みに加え、NHKの神戸枠でも放送があったほか、地元フリーペーパーにも大きく取り上げられた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

今回の上演作品は映画「焼肉ドラゴン」の原作であり、姫路での初演以来現在も国内外で再演が続いている。この作品を17年ぶりに姫路市で再演することで改めて姫路発であることを広く認識していただき、市民にも大きくアピールし、当地の演劇文化の底上げを目標に挑んだのだが、助成により今回の公演全体に係る経費に余裕が生じ、鄭氏や作品の知名度に似合う質の高い舞台を提供できた。また、本公演の作・演出を依頼した当地出身の鄭氏による内容の濃い演劇ワークショップを開催することにより、地元の高校生を中心に若い人材の育成と、地域の演劇文化の底上げに貢献できた。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

- ・地元劇団の集合体でもある「はりま劇団協議会」との共同主催としたことで、地元劇団の育成、支援を図れた。また、劇団同士の競争もみられ熱気あふれる質の高い公演となった。
- ・本市出身の鄭義信氏の代表作のひとつである本作品が、姫路発であるという事を広く再確認させる機会となった。
- ・「鄭義信演劇ワークショップ」を開催した際、社会的役割にも記述している「高校演劇部」の事務局である“兵庫県高等学校演劇研究会西播支部”と協力することにより、高校演劇部の学生が多数参加し、若い人材の育成と、当地の演劇文化の底上げに貢献できた。
- ・指標の達成状況（実績）については、公演日数と公演回数とも指標どおり2日間3回公演を達成し、入場者目標900人に対し879人と目標の98%を達成できた。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

実施日程についてはプロ・アマともにそれぞれの公演が集中している夏を外すことにより、団員も比較的練習に参加しやすくなった。また、練習期間を集中することで、期間を短縮でき団員の拘束時間も少なくなるなど負担も大幅に減らせ、効率よく準備ができた。また市民も比較的外出しやすくなった9月後半に設定することにより、来館数の増加につなげる事が出来た。
事業費は設立記念事業にふさわしい、見応えのある舞台の制作に適したものとする。
また、姫路市出身の脚本・演出家である鄭氏に約一か月間滞在していただけたことで、人件費や練習調整の時間削減できた。観客動員数に関しても当初の事業計画通りの動員が確保できた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

会場である姫路キャスパホールは、JR、私鉄、バス、タクシーなどの発着場所と周辺にはさまざまな集客施設が集中した姫路の玄関口にある百貨店の最上階に設置されたホールである。また、能舞台も組める本格的な小規模公共会館として高い機能を有している。

キャパが300席という小規模ホールでありながら広い舞台と本格的な舞台装置、舞台から客席の最後列まで15メートルという臨場感を満喫できる演劇公演には最適といえるホールである。

そのホールにおいて、姫路市出身で紫綬褒章を受賞されている脚本演出家の鄭義信氏が17年前に当財団のために書き下ろした作品を再演したことにより、姫路発のオリジナル演劇を市民と全国の演劇関係者に向けて発信した。この作品を原点にした映画「焼肉ドラゴン」のロードショーの公開直後と重なり、情報発信には最高のタイミングとなった。

バラック小屋のまちをリアルに再現した舞台と、脚本にも新たに加えられた部分があるなど2019年バージョンとして蘇るものとなった。

出演者も各劇団からの選抜で構成され、そこにプロの役者を加えたレベルの高い公演は、3回公演とも満席となった。当初の目的であったオリジナル作品の姫路からの再発信、地元演劇人とプロの役者との技術交流の機会の提供、更に若い演劇人を育てるワークショップなどを通して、当地の演劇文化の底上げに大きく貢献できた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

- ・地元劇団の集合体でもある「はりま劇団協議会」と、当財団の両主催で公演実施ができた事により、地元劇団の育成、支援を図れた。また、劇団同士の競争もみられ質の高い上演となり、毎回満席の会場からも迫力と演技に惹きつけられたという声がたくさんあった。
- ・当市出身の鄭義信氏の代表作のひとつであるこの演劇が、姫路発のものであるという事を広く再確認させる機会となった。
- ・「鄭義信演劇ワークショップ」を開催した際、社会的役割にも記述している「高校演劇部」の事務局である“兵庫県高等学校演劇研究会西播支部”と協力することにより、高校演劇部の学生が多数参加し、若い人材の育成と当地の演劇文化の底上げに貢献できた。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

事業自体は記念事業という事もあり、かなり大掛かりなものであった。今後も節目節目の開催として継続していく予定であるが、この事業を通じて近隣地域の劇団同士の交流は活性化し、お互い刺激を受け、結果地域の芸術文化の向上に繋がっている。
また高校演劇部をはじめ、若い演劇人の育成にも大きく貢献でき、演劇文化振興に向けての基盤づくりや底上げに資することもできた。